

地域の相談窓口 在宅介護についてご相談ください！

令和6年11月4日 鈴鹿グリーンホーム 取組報告会・地域報告会

在介係 居宅介護支援部門

主任 田中 清美

西村 拓也、佐野 由美、伊藤 如子、小野 隆一

～私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます～



鈴鹿グリーンホーム 居宅介護支援事業所

設置主体：  社会福祉法人 鈴鹿福祉会



主な活動地域： 鈴鹿市西部地域など



所属職員： 介護支援専門員（ケアマネジャー） 5名
内 主任介護支援専門員 1名

地域の相談窓口としての役割

初回相談(出会い) とニーズの把握

・利用者や家族は不安な気持ちで相談に来られます。介護が必要になる状態は初めて迎える事態です。困惑も多いので初めて会う相手に、きちんと事情を整理して伝えることは困難です。まずは時間をかけてお困りごとを聞かせていただきます。

相談の経緯は利用者本人、家族や民生委員さんからの勧め、地域包括支援センターを通じたの紹介、病院の医療相談員さんからの紹介など様々です。来所されることもありますしご自宅や入院中の病院に伺うこともあります。



相談内容

- ・よく転ぶようになっていたのでリハビリをしたい。家の中に手すりを付けたい。歩行器を借りたい。
- ・物忘れが増えてきたので主治医にデイサービスの利用を勧められた。デイに行くにはどうすればよいか教えてほしい。
- ・寝起きが大変になったので介護用ベッドを借りたい。
- ・退院が近いので自宅の環境を整えて退院後の介護サービスの利用について相談したい。
- ・熱中症やコロナに罹ったあと食事量が減って起きられなくなった。

本人・家族の意向、心身の状態などに合わせた介護サービスが選べるように提案をさせていただきます。

多職種による支援の重要性

- ・利用者様の主治医や看護師、理学療法士、各サービス事業所通所系サービスやヘルパー、福祉用具事業者との連携

具体例：

退院前の会議（カンファレンス）や自宅への訪問で、利用者様の状態を専門職から聞き取り、生活環境整備のための検討を行う。実際の生活場面を確認することでさらに具体的なリハビリ目標が共有できる。在宅での生活をイメージできる。

担当者が集まる会議でお互いの役割を確認できる。

介護サービスの利用による効果

- ・デイを利用するようになり、言葉が増えた、足がよく上がるようになった。生活が規則正しくなった。
- ・リハビリをするようになり、長く歩けるようになった。
- ・転倒が減った。

利用者様の状態が改善することもあります。加齢や病気の影響などで悪化することもあります。多職種と連携しケアプランの見直しを行います。

ご清聴ありがとうございました！



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム